



令和6年度 井上綾乃 保育ゼミ通信 2

あそびで子どもの発達を支援する ～保育実践プログラム～

和光市保育センター 令和7年3月18日発行

令和4, 5年度に続き、発達支援スキルアッププログラムの研修を継続して行っています。令和6年度は最終3年目となります。学んだ知識を活かして発達支援につながる遊びを体験しながら考え、学んでいます。今回は第4回、第5回の内容を集約してご紹介します。

「絶対に〇〇でなければ ならない」思考の子

には、そう
ならなくても大丈夫だった、楽しかった経験
を積み上げることが大切です。その経験がで
きるように保育者が工夫をしましょう。

思いが叶わなかった時、大人は大丈
夫だと思える事でも、思考の固い子に
とっては、とても辛いことなんだね。

その子がどの程度なら諦められるのか
を探り、支援をする大人の柔軟な思考と
アイデアで支援することが大切だね！



「絶対に勝ちたい！」勝敗に思考の固さがある子には
①②③が入っている遊びで、
負けても大丈夫だった、楽しかった経験を。

①
勝ち負けが
ある

②
短時間で
勝敗がつく

③
すぐに繰り返しの
チャンスがある



あそびを
考えてみました！

- ・にらめっこ
- ・あっちむいてホイ
- ・どっちの手に入っているか
- ・紙飛行機とばし
- ・ボール転がし など…

追従性眼球運動は

対象を眼球で追いつける運動機能。
文章の文字を目で追うときなどに必要。

跳躍性眼球運動は

瞬時に視点を移動し、ピントを調整する運動
機能。板書、文章の改行の時などに必要。



上記二つの眼球運動を体験し
てみたよ。どちらも運動機能
なので、遊びで発達を促すこ
とができるんだね！



あそびを
考えてみました！

転がってくるボールを
キャッチ(追従性眼球運動)、
まちがい探し(跳躍性眼球
運動) など…

第5回では、参加者によるまとめの回。和やかな雰囲気の中、お互いのグループの発表内容を真剣に見聞かしていました。参加してくれた先生方の学ぶ意欲、そして毎回、時間が過ぎるのが早すぎると感じる井上先生の楽しいご講義のおかげで満足度の高い研修となりました。

発達特性を正しく理解し、肯定的な視点で支援する事、また、大人の柔軟な思考・知識・経験で積極的に支援にチャレンジしていく事の大切さを胸に刻み、多くの人に伝えていきたいですね。

